

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472400340
法人名	株式会社 さかもと
事業所名	グループホーム さかもと
所在地 (電話番号)	宮城県亶理郡山元町坂元字北谷地29-1 (電 話) 0223-38-1110

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成21年3月25日

## 【情報提供票より】平成21年3月4日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 21人 非常勤業務 2人 常勤換算	16.5人

## (2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000)円 無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(3月4日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2			
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	菅野医院、宮城病院、松本歯科、にいの歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東北の湘南といわれる温暖な地、亶理郡坂元にて、平成16年6月に開設されたのがこのグループホームさかもと(「うみ」「やま」の2ユニット)である。周囲は雑木林や川や沼があり、季節によって白鳥や雉が飛来し入居者の目を楽しませてくれるという。また浜辺まで高齢者の足で徒歩3分という近さもあり、気軽に散歩が出来るので入居者にとっては、良いリハビリ効果につながっている。法人の運営者及びホームの管理者、全スタッフはより良いサービスを提供することで、さらに質の高いケアを目指そうと意欲を燃やし取り組んでおり、昨年東京センター方式を採用しケアプランに活かしている。またホーム内で使用している水は地下水であること、自家発電装置を備えていることから入居者に安心感を与えていると思われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は4項目であったが、①ホーム独自の地域密着型理念については引き続き見直しに向け話し合うことをお願いしたい。②運営推進会議を活かした取り組み③家族への報告④職員の異動などによる利用者への影響の3項目については改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に限らず外部評価を含めて、その意義を理解した上でケアに活かすため全スタッフで話し合い取り組んでいる。その結果見出したいいくつかの課題を整理しすでに改善の取り組みを始めているとしており期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	施設長の交代等もあって、運営推進会議の設置が遅れたが、その後定期的に開催し、双方向的な運営を行ない議事録も公表している。メンバー構成は、区長、民生委員、地域包括支援センター、入居者家族代表、運営者、管理者、職員である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情処理機関として、ホーム内の受付窓口、町役場、国保連を明記し掲示されているが第三者の委嘱がなされていないので、家族が気軽に相談できる相談先として善処して頂きたい。例として運営推進会議のメンバー(区長、民生委員)にお願いする方法もある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入していて、回覧板を廻したり、清掃活動に参加する等地域に溶け込む努力をしている。また小学校の運動会や発表会或いは花見や芋煮会等地域の諸行事に参加し交流を深めている。また有志による唄や踊りの交流、老人会とお茶のみを通じた交流等定期的に開催している。なお災害時の緊急避難場所として、ホームを指定するための検討が進められている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念として「地域資源を活用し明るく安心、安全の生活を支援する」ことを掲げているが、今後も入居者が地域で暮らし続けていく視点(地域密着)に欠けている。	○	地域に溶け込もうと努力していることは認められるが、地域密着(継続性、関係強化)型サービスの文言を盛り込むことをみんなで話し合い見直していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び全スタッフが理念を共有し実践するため、ユニット会議やカンファレンスで話し合い日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃活動や花見、芋煮会、小学校の運動会等の行事に参加し交流を深めている。また老人会や地域のボランティア(唄や踊り等)を受け入れているが、今後はその内容について、より充実したものにしていくなべく検討を始めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては、外部評価を含めその意義について理解し合うことから全スタッフで話し合いを重ねながら取り組んだ。その結果見出したいくつかの改善課題について整理したものを改善に向け現在取り組んでいるとのことであり、期待したい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年設置し、その後定期的に開催している。メンバー構成は、区長、民生委員、地域包括支援センター、入居者家族代表、運営者、管理者及び職員であり、運営は双方向的に行われ、議事録を公表している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月定期的に行っている山元町主催の実務担当者会議への参加を通して行政との連携を図っている。また入居希望(待機)者に関することやサービスの質の向上に係わることで日常的な連絡を密にし取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者は日々の暮らしぶり、健康状態について月に1回手紙で報告している、同時に毎月発行している「さかもと通信＝ホーム便り」を同封している。ホーム便りには職員の異動(離職も)掲載し周知している。なお金銭管理についても報告し確認を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理機関として、ホームの相談窓口、山元町、国保連については重要事項説明書に明記し、玄関に掲示しているが、第三者委員の委嘱がなされていない。家族が気軽に相談できるようにするため、第三者委員の委嘱を考慮して頂きたい。	○	家族が気軽に要望、意見が出せるしくみとして第三者委員を委嘱し、重要事項説明書に追記するとともに家族に説明して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交代は少ないが、常勤職員の交代が多い。その要因は離職のようであり、ホームとしてはいったん離職した職員の再採用や資質の向上、人材の育成に力を注ぐことで、入居者及び家族に与えるダメージを少なくしていきたいということなので期待したい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	NPO県グループホーム協議会主催の講習会や実践報告会に参加する他、段階に応じた法人内外の研修や同業者で行う地域ケア会議にも参加しているものの、勤務体制上の関係もあり十分とはいえないので、今後はより計画的に取り組んでいきたいとしており期待することとしたい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山元町主催の地域ケア会議が定期的に行われており、ホームとしても欠かさず参加している。法人代表が福祉推進委員をしていることから地域内の介護施設合同の事例発表会に積極的に参加し今後とも連携し、取り組みを強めていきたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にスタッフが家庭を訪問し、本人、家族と話し合い、ホームに対する理解をしていただくようになっている。さらに、入居開始前にホームに来訪してもらい、他の入居者の暮らしぶりを通してホームの雰囲気を体感した上で安心して入居して頂けるように心がけて取り組んでいる。		
入居					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは全入居者の生活歴や得意分野を把握して、人生観について語り合う中から入居者に教えてもらう姿勢で、共に支えあう関係を築く努力をしている。介護計画を作成するに当たって東京センター方式を取り入れてまだ日は浅いがこの謙虚な姿勢を今後も続けて行って頂きたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気づきノートを始め、日々の記録や申し送りにより入居者本人の希望や意向の把握に努めているが、困難な場合は本人本位に検討している。なお、その場合でも可能な限り家族に教えてもらうよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては、昨年東京センター方式を取り入れ実施している。毎月のユニット会議で意見やアイデアを出し合い、本人・家族・スタッフさらには医師等必要な関係者と話し合い本人本位のプランを作成している。その際プランの写しを家族に渡し同意を得るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画の見直しと急変時の見直しを行っているが時には遅れることもあったので、今後はサービス担当者会議を計画的に行うことで現状に即したものにしていきたいとしている。	○	東京センター方式を取り入れたことで改善が進んでいるが、今後計画的にサービス担当者会議を開催することにより、現状に即したケアプランを行えるようホームの取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、墓参、外出、外泊等家族の協力のもとで支援している。また遠方から来訪された家族に寝具や食事を提供し、宿泊して頂いたこともあるというように、今後もホームの多機能性を活かしていきたいとしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	菅野医院がホーム医として関わり、入居者の身体状況によって家族とコンタクトを取った上で、通院の支援や時には電話による医師の指示で支援をすることもある。また場合により、紹介状で適切な医療が受けられるよう支援している。なお、これらについては予め家族の合意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書で本人家族の同意があればターミナルケアの用意があることを明記している。またその方針の中で担当医師及び看護体制も明確にしている。また実施するに当たってもホームの各職種ごとの任務と役割について文章化されている。なお、ごく最近急変で入院された方が病院で亡くなった事例があったが、ホームでの看取りには至らなかったということである。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する職員の声かけは自然であり、名前の呼称についても温かみを感じる。「その人をよく知ろう」という職員の姿勢が入居者の尊厳につながっているように思われる。個人情報に関わる記録の扱いや書類の保管も適切であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れは決まっているとしても、入居者本人のペースは昨日と同じとは限らない。職員は現時点で本人の様子を汲み取り、手順を変える等気を配り本人のペースを優先する支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のリクエストに応え、餅、すいとん、巻き寿司等を提供している。近隣の農家から野菜、味噌、漬物等を差し入れていただいたり、納豆、梅干、とろろ等食卓を賑わせている。また果物が豊富な土地柄だけに食後のデザートにも人気を集めている。調理は職員が行うが配膳下膳はみんなで行っており、職員のさりげないサポートにも好感が持てた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望によっては午前中でも入浴可能である。気の合う同士と一緒に入り入浴を楽しんでいる。ホームの使用する水はすべて地下水(軟水)であり、飲んだり洗ったりすることで老廃物を排泄し肌が綺麗になるといわれていて最近では入浴を嫌がる方はいなくなったとのことである。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のもてる力、得意分野で手芸、ぬりえ、パズル、ランプゲーム等を楽しんだり、掃除、洗濯物の取り込みやたたみ、裁縫や畑仕事等多彩な支援を行っている。また「うみ」と「やま」のユニット相互の交換交流による気晴らしの支援も併行して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	海、川、沼等恵まれた自然環境にあるだけに白鳥や雉を觀賞したり、買い物がてら近くの浜辺を散歩をしたり、ときにはリフト付き大型車でドライブを兼ね互理公園等に遠出することもあり、日常的な外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	センサーを設置しているが、日中玄関に鍵はかけていない。全職員は鍵をかけることは身体拘束と同様な弊害を入居者に与えるものであることを熟知しており見守りに徹している。センサーは入居者を監視するためのものでないことを理解し取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定を含め消防署の協力のもと定期的に防災訓練を実施している。ホーム内に火災通報専用電話が3ヶ所設置されていること、自家発電装置があること、運営推進会議を通じての地域住民の協力体制があること、食料や飲料水の備蓄があることすべて万全といえる。なお、ホームを緊急避難場所に指定する方向で現在検討が進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材購入時に献立表とともにカロリー計算表が送られてくるので食べる量や栄養バランス、水分摂取量等チェックしながら職員が調理を行っている。また月に一度の体重測定、管理栄養士の助言指導を定期的に受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全般的に居心地のよい共用空間といえる。照明や日差し(天窓からも)換気、温湿度調整、厨房とリビングの設定もよい。生活感、季節感の面でも工夫が施されている。さらに広い中庭にチェア等が置かれていて、好天の日のひなたぼっこや季節ごとの花見や芋煮会等に役立っているとのことである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れたものが持ち込まれていて落ち着いた気持ちで過ごせる居室になっている、以前、帰宅願望の強い入居者がおり、家族の協力を得て本人が使用していたソファを持ち込んだところ、安心したのかその後帰宅したいと言わなくなったという。今後の参考にしたい事例である。		